



■ご挨拶「年頭にあたり」 JVCKW シニアクラブ 会長:菅沼 喜久次

会員の皆様明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで、健やかに新年をお迎えになられたことと拝察し、心からお慶び申し上げます。

今年の世相を現す漢字一文字は「災」でした。日本は災害大国といわれ、昨年も大阪や北海道で大きな地震があり、西日本では豪雨による大きな被害も受けました。

海外においても、インドネシアで火山による山塊崩壊で突然の大津波が発生し、多くの被害を受けました。このような天災に限らず、政治・経済面での的確な判断や指導の誤り、独断や偏見などで国家・国民に犠牲を強いる人災も世界の各地で散見されました。

「災(禍)いを転じて福となす」・・・この言葉に込められた意味は、このような天災・人災を教訓として日頃の心構えや事前の対応をしっかりと持ち合わせておくべき、ということでしょう。

今年5月には元号も変わり新たな時代の幕開けとなります。

昭和が戦争、そして戦後復興で経済が急成長した時代であったのに対し、平成の30年間は、バブル崩壊後の国内経済の低迷、少子高齢化、国の借金増大など、マイナス面での要素が嵩んできてしまった感が否めません。

春には統一地方選、夏には参議院選、10月には消費税10%にと、政治的、経済的に大きな動きが予想されます。次の時代が少しでも良い方向に向かっていけるよう、私たち一人ひとりがその動向を注視し、力を合わせて対応していかなければなりません。

昨年10月の総会において会の名称を改め、新たな発展を目指してスタートいたしました。

私自身、昨年は健康に優れず、会員の皆様にはご心配をおかけいたしました。本年は健康に留意し皆様と共にシニアクラブ発展のために活動してまいりたいと思っております。ご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## ■トピックス：災

会長挨拶にもあるとおり、昨年の世相を表す漢字一文字は「災」でした。ここではこの文字について考察してみようと思います。

古来より人類にとって火は生活する上で欠かせないものであり、神として畏敬の念で接する対象でもありました。

オリンピックでは聖火となり期間中炎が絶えず、真言密教では護摩が焚かれ祈りが捧げられます。

日本各地においても厄払いや五穀豊穡を祝って火祭りが行われ、夏には花火が夜空に大輪の花を咲かせ、人々を和ませる。



旧国立競技場の聖火台

「火」が重なれば「炎」となり、この文字からは悪と煩惱を抑え、行者を助ける不動明王の顔が連想されます。しかし、この火の取り扱いを誤ればとんでもない脅威となるものです。

さて本題の「災」ですが「火」の上に「川」が重なっています。「川(セン)」は川そのもので、古来より川は交通の手段として利用され、自陣を守る防御としての役目も果たしてきました。そして、人々にとって生きるために欠かせない水もそこから供給されました。

しかし、これもひとたび溢れば洪水となって人家・田畑を襲い、「火」も「川」も共に人々にとって欠かせぬものでありながら、一方で脅威の対象にもなっていたわけです。

この文字を作った古代の人はこの様に脅威の対象を重ね合わせて、災いの恐ろしさを後世に伝えようとしてくれたのでしょう。

しかし、「天災は忘れた頃にやってくる」・・・「災」は人が油断したり、取り扱いを間違ったりしたときに起こるものといえるのではないのでしょうか。折角の古代の人の教えを無にしないように私たちは常に気をつけていなければなりませんね。まして人災においてをや・・・。

## ■事務局から（シニアクラブ事務局業務について）

昨年の総会で話をし、総会議事録3ページ、31年度会計収支予算の項目の中にも記されていますが、従来、現役労組役員に大半を委ねてきたシニアクラブ事務局業務を出来る範囲から独自に担っていく事となりました。

理由としては、労組役員の組織体制が一部スリム化された事によるものですが、シニアクラブとしても人に頼らず、会計・会員組織など直接管理するべきとの判断からです。

実際に取り掛かってみて、今までいかに現役労組幹部にお世話になっていたかということが分かってきました。今後、シニアクラブ役員の業務分担なども決めていく予定です。

連絡窓口は今までと変わらず労組にて対応をしてもらいますが、皆様からの連絡・問い合わせなどでレスポンスに若干時間がかかってしまうことがあると思いますが、ご了承ください。

事務局長 田代 周

「田中ひさや」を応援しよう